

令和 4 年度  
東京都公立大学法人  
業務実績評価書  
(案)

東京都地方独立行政法人評価委員会

# I 全体評価

## 【全体評価】

令和4年度は、第三期中期目標期間の最終年度として、中期目標達成に向けて中期計画に基づいた年度計画を順調に実施しており、着実な業務の進捗状況にある。

### ●優れた点・特色ある点

- 東京都立大学では、Society5.0時代に求められる人材の育成に対応したプログラムとして、数理・データサイエンス副専攻コースを開講し、想定を大幅に超える86名の新規登録者を得た点が評価できる。
- 東京都立産業技術大学院大学では、社会人リカレント教育として、AIITフォーラムを実施しており、延べ1,379名の参加者を得たほか、AIITシニアスタートアッププログラムを継続的に実施している点が評価できる。
- 東京都立産業技術高等専門学校では、品川区、荒川区との協定による特別推薦入試制度においては、令和4年度入試より募集人員を増加し、4名の学生を受け入れた。また中学2年生とその保護者を対象としたスクーリング及び特別推薦入試説明会を開催し、特別推薦入試による入学希望者が増加した点が評価できる。
- 法人の業務運営においては、働き方改革の推進に貢献した取組を表彰する「ワークプラクティス・オブザイヤー」を実施し、働き方改革の機運醸成と、職員のモチベーションの向上を図った点が評価できる。

## 1 令和4年度業務実績の総評

- 令和4年度は、東京都公立大学法人（以下「法人」という。）の業務が、概ね順調に進められた1年であったと評価する。社会は徐々にコロナ禍以前の状態を回復しつつあるが、コロナ禍を契機に取り込んだ新たな教育方法を活用し、各高等教育機関が発展的に回復するとともに、それぞれの特色を活かしながらバランスよく教育、研究、社会貢献活動を精力的に行ってきた。
- 一方で、環境問題や少子化対策等、複雑化・高度化する社会問題の解決に向けた取組や、シニア層を含めたリカレント教育等、高等教育機関に求められる役割は多様化しており、都立の高等教育機関として、いち早くその付託に応えるための活動がより一層推進されることを期待する。

## 【東京都立大学】

- 東京都立大学（以下「都立大」という。）では、Society5.0時代に求められる人材の育成に対応したプログラムとして、数理・データサイエンス副専攻コースを開講し、想定を大幅に超える86名の新規登録者を得た。
- 博士後期課程学生への支援を充実させるため、日本学術振興会特別研究員申請の支援体制を強化し、申請の支援を45件実施することで、学生5名が特別研究員に採用された。
- コロナ禍においても、学生が学びを継続し、充実した学生生活を送ることができるよう、図書の郵送対応、eラーニングシステムの改修、オンライン授業の実施体制の整備、ラーニング・コモンズのリニューアル、インターネット接続の回線速度の高速化・セキュリティの確保等、様々な取組を行った。
- 研究センター所属の教員に研究内容に応じて親和性の高い公募情報を提供するなど、

様々な支援を展開しており、センター等の外部資金獲得額は、前年度に引き続き過去最高額を更新した。

- 東京都立大学プレミアム・カレッジにおいて本科の定員を増員したが、3倍を超える志願者があり、合格者全員が入学手続きを行うなど、順調に発展している。

#### 【東京都立産業技術大学院大学】

- 東京都立産業技術大学院大学（以下「産技大」という。）では、PBL やアクティブ・ラーニングの定着・情報発信に積極的に取り組むとともに、コロナ禍においてもアジア各国との連携推進において成果を挙げている。
- 社会人リカレント教育として、AIIT フォーラムを実施しており、延べ1,379名の参加者を得たほか、AIIT シニアスタートアッププログラムを継続的に実施している。
- SNS での積極的な情報発信、教員紹介動画、ロールモデル集等を活用した効果的な広報活動により、大学院説明会参加者は463名に上り、令和5年度4月入学者の志願倍率は2.1倍に達している。
- グローバル人材として獲得すべき能力指標を活用した教育を行っており、基準を満たす修了生の割合が96.1%に達した。

#### 【東京都立産業技術高等専門学校】

- 東京都立産業技術高等専門学校（以下「産技高専」という。）は、新たな職業教育プログラムとして導入した情報セキュリティ技術者育成プログラムと航空技術者育成プログラムにおいて着実に修了生を輩出し、その全員が関連する分野に進学・就職している。
- 品川区、荒川区との協定による特別推薦入試制度においては、令和4年度入試より募集人員を増加し、4名の学生を受け入れた。また中学2年生とその保護者を対象としたスクーリング及び特別推薦入試説明会を開催し、特別推薦入試による入学希望者が増加した。

#### 【法人の業務運営等】

- 法人の業務運営においては、働き方改革の推進に貢献した取組を表彰する「ワークプラクティス・オブザイヤー」を実施し、働き方改革の機運醸成と、職員のモチベーションの向上を図った。
- 寄附金獲得額の拡大を図るため、都立大同窓会と連携して、ホームカミングデーに合わせて寄附イベントを開催し、寄附者に対して感謝状を贈呈するなど、継続的な寄附意欲を促進する取組を充実させた。
- カーボンニュートラルの実現に向けて、カーボンニュートラル実行計画策定検討委員会を設置し、教職員や学生からの意見も踏まえ、「カーボンニュートラル推進プラン」を策定した。

## Ⅱ 項目別評価

## 【項目別評価】

### ① 業務実績の検証

項目別評価を実施するに当たって、法人から提出された業務実績等報告書を基に検証を行った。検証に当たっては、年度計画及び中期計画に記載されている各項目の業務の実績について、中期計画の進捗・達成状況及び成果・効果を確認するとともに、法人の自己評価及び計画設定の妥当性を含め総合的に行った。

検証は、法人からのヒアリングにより実施した。

### ② 業務実績の評価

業務実績等報告書の各項目の検証及び特記事項等を基に、業務の進捗・達成状況及び成果・効果を大項目ごとに1～5の5段階で評価した。

## 【年度評価】（評定・評語・説明）

評定	評語	説明
1	年度計画を大幅に上回って実施している。	顕著な実績又は特に優れた成果が認められるもの
2	年度計画を上回って実施している。	年度計画を上回る取組、実績又は成果を挙げたもの、あるいは年度計画を順調に実施し、かつその取組に注目すべき点（※）が認められるもの
3	年度計画を順調に実施している。	達成度が概ね100%程度と認められるもの
4	年度計画を十分に実施できていない。	年度計画を計画通り実施できていないもの 実績・成果が年度計画を下回っているもの
5	業務の大幅な見直し、改善が必要である。	公立大学分科会が特に認める場合

※中期目標を達成するため、中期計画を前倒しして実施するなど、戦略性が高く意欲的な年度計画を積極的に実施するなどの、その取組に注目すべき内容が認められるもの、あるいは社会情勢の変化等の外的要因により達成がより困難となった年度計画について達成したもの等

年度計画の大項目ごとの評定及び評定説明は、以下のとおりである。中期計画の項目に沿って記載する。

## I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1 教育に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評定
1	教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置	2
2	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇教育改革を推進する取組の強化	2
3	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇学修支援環境の整備 ◇教育の質の改善	2
4	学生への支援に関する目標を達成するための措置	3
5	入学者選抜に関する目標を達成するための措置	3

## 【評定説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

### （優れた点・特色ある点）

- 【大項目1】現場体験型インターンシップでは、コロナでの経験を活かした工夫によってきめ細かく学生に対応し、中断者の比率を例年に比べ大幅に減少させることができた。
- 【大項目1】Society5.0に対応した人材育成プログラムとして、数理・データサイエンス副専攻コースを開講し、想定を大幅に超える86名の新規登録者を得た。文系、理系両者から履修者を得ており、社会や学生のニーズにあった教育が実施されている。

- 【大項目 2】次世代研究者挑戦的研究プログラムの支援学生数が、採択時の 20 名から、令和 4 年度は 21 名、令和 5 年度は 30 名へと拡大され、博士後期課程学生の研究力強化とキャリアパス支援の拡充を図った。
- 【大項目 2】博士後期課程の研究力を強化するため、日本学術振興会特別研究員申請の支援体制を強化し、申請の支援を 45 件実施することで、学生 5 名が特別研究員に採用された。
- 【大項目 3】コロナ禍において顕在化した回線逼迫を受けて、インターネット回線を高速回線へ切り替えるとともに、SINET 仮想専用線を利用することにより、法人全体のネットワークをセキュアに接続できる環境を整えた。
- 【大項目 3】コロナ禍においても、学生が学びを継続し、充実した学生生活を送ることができるよう、図書の新着対応、e ラーニングシステム kibaco の改修、Zoom Rooms 導入によるオンライン授業の実施体制整備、ラーニング・コモンズのリニューアルのほか、全学的な共通情報インフラとしての統合認証基盤の整備に着手するなど、様々な取組を行った。
- 【大項目 4】障害のある学生等への支援について、バリアフリーチェック講習会等の各種イベントの開催、対面及びオンライン授業の受講支援、大学院入試における障害のある学生の対応に関するガイドライン作成、手話動画辞典の作成など、多面的に充実した取組が行われた。
- 【大項目 4】OB・OG ネットワークの登録方法を工夫することで、登録者数を増加させるとともに、企業等の選考方法の多様化に応じて就職活動支援事業の早期化、改善等を図っている。
- 【大項目 5】大学説明会について、オンラインを活用した Web 大学説明会の開催に加えて、感染対策を十分に行った上で対面型での開催も行い、1 万人を超える参加を得た点が評価できる。参加者アンケートにおいて高い満足度も得ている。

**(更なる充実が期待される点)**

- 【大項目 1】TA 従事者に対するアンケート結果等を検証し、TA 初任者研修等に質問相談対応に関する内容を盛り込むなど、TA 制度の充実を図った。KPI に掲げた TA 等の人数「年間延べ 1,000 人以上配置」が未達成であるため、今後のより一層の取組を期待する。
- 【大項目 3】学生と教職員が意見交換をする学生参加型 FD を実施した点は評価できる。一方で、FD 関連セミナー全体での参加者数が前年度を大きく下回っており、参加者数増加に向けた取組を期待する。

**(改善すべき点)**

- 【大項目 4】健康診断の受診率が低下していることから、今後の受診率向上に向けた取組の充実を求める。

**2 研究に関する目標を達成するための措置**

大項目番号	取組事項	評価
6	研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置	2
7	研究実施体制等に関する目標を達成するための措置	3

**【評価説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など**

**(優れた点・特色ある点)**

- 【大項目 6】オープンユニバーシティの講座で最先端の研究やユニークな研究などの成果を発信し、一般受講者・高校生いずれも前年を上回る参加を得た。
- 【大項目 6】研究センター所属の教員に研究内容に応じて親和性の高い公募情報を提供するなど、様々な支援を展開しており、センター等の外部資金獲得額は、前年度に引き続き過去最高額を更新した。
- 【大項目 6】大学のプレゼンスの向上を図るため、世界最大規模の科学ニュースサイトで

ある EurekaAlert!において、研究成果を積極的に発表している。

- 【大項目 7】 科研費獲得増加に向けて、研究計画調書の組織的な作成支援、学長裁量研究費による上位種目へのチャレンジ支援などを実施しており、新規採択率及び採択金額が過去最高を記録した。
- 【大項目 7】 国の大型研究プロジェクト獲得について、6年間の第三期中期目標期間中に12件の目標に対し、令和4年度の採択数は4件に達した。
- 【大項目 7】 キャンパス間で研究機器をリモートで共用することを可能とするスマートラボ化の実証実験に取り組むとともに、日野キャンパスの研究機器共用センター開設に伴う共用機器の大幅な増設に向けた準備を進めた。
- 【大項目 7】 都立大のローカル 5G 環境を民間企業等に無償提供する「実証フィールド提供事業」を7件実施し、5G の新たなユースケースやサービスの社会実装の促進に向けた取組を推進している。

**(更なる充実が期待される点)**

- 【大項目 6】 被引用度トップ 10%論文の比率 (過去 5 年平均) や国際共著論文の割合が過去 6 年間で最低となった。効果的な研究支援の方法を検証し、研究力の強化を図る取組の推進を期待する。
- 【大項目 7】 一時保育施設について、構成員のニーズを調査し、利用対象者を学内で開催する学会に参加する学外者にも拡大するなど、利用者数の確保や利用満足度の向上に取り組んでいる。今後、こうした取組により更に利用しやすくなることを期待する。

**3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置**

大項目番号	取組事項	評価
8	都政との連携に関する目標を達成するための措置	3
9	社会貢献等に関する目標を達成するための措置	2

**【評価説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など**

**(優れた点・特色ある点)**

- 【大項目 8】 将来の感染症対策に資する大型の学際的研究プログラムを開始するとともに、新たに4件の都との共同研究を立ち上げるなど、都連携事業の実績が向上している。
- 【大項目 8】 コロナ禍による行動制限の緩和に伴い、対面による障害者スポーツの講習会等を再開するとともに、健康福祉学部の全学科の学生が「障害者とスポーツ論」を履修することを可能とするなど、障害者スポーツへの理解促進に向けて取組の充実を図った。
- 【大項目 8】 高度金融専門人材を養成するプログラムの修了生のうち4名が博士後期課程に進学し、さらに高度な専門人材の育成につながっている。また、金融工学に関する多数のセミナーやシンポジウム等を開催し、国内外の研究者との共同研究、交流を推進した。
- 【大項目 9】 シニア向けの講演会や高校生向けの講座など様々な分野のオープンコースウェアの動画コンテンツの充実を図るとともに、高校や図書館への広報を開始するなど、都立大の学術成果をより幅広い都民に還元する取組を実施している。
- 【大項目 9】 オープンユニバーシティにおいて、都や特別区協議会などとの連携講座の開講や、対面とオンラインそれぞれのニーズに応える講座の企画などにより、受講者数の拡大や新規会員の獲得、都立大のプレゼンス向上につなげた。
- 【大項目 9】 プレミアム・カレッジにおいて、令和5年度から本科の定員を増員したが、引き続き3倍を超える志願者があり、60名の合格者全員が入学手続を行った。

**4 グローバル化に関する目標を達成するための措置**

大項目番号	取組事項	評価
-------	------	----



10	グローバル化に関する目標を達成するための措置 ◇教育の国際通用性 ◇学生の海外派遣の拡充 ◇外国人留学生の受入れ	3
11	グローバル化に関する目標を達成するための措置 ◇海外の大学等との連携 ◇都市外交を支えるネットワーク形成 ◇キャンパスの国際化	3

**【評定説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など**

<p>(優れた点・特色ある点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○【大項目10】海外インターンシップ体験参加後に、学生の自発的なコミュニケーションの面で変化が見られる等、成果を挙げている。</li> <li>○【大項目10】留学促進チームに、教職員に加え学生も参加し、学生の発案により、SNSで留学中の学生から提供された留学先のレポートを発信する等、学生の留学意欲向上に資する取組を実施した。</li> <li>○【大項目10】世界を舞台に各界の一線級で活躍するゲストスピーカーによる連続講義からなる特別講座を実施し、グローバルな視点を育むとともに、留学意識の醸成を図った。</li> <li>○【大項目11】TOEICスコア600点以上を取得している職員の割合を25.1%に高め、正規職員のTOEIC600点以上のスコア取得者割合においては33.2%となった。</li> </ul> <p>(更なる充実が期待される点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○【大項目11】若手研究者育成のため、若手研究者海外派遣支援制度等の取組を実施しているが、件数増加に向けて、取組が強化されることを期待する。</li> </ul>	
--	--

**II 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置**

**1 教育に関する目標を達成するための措置**

大項目番号	取組事項	評定
12	教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置	2
13	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇産業界や他大学等との連携による教育実施体制の整備 ◇東京都立大学及び東京都立産業技術高等専門学校との連携	2
14	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇教育の評価・改善	2
15	学生への支援に関する目標を達成するための措置	3
16	入学者選抜に関する目標を達成するための措置	2

**【評定説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など**

<p>(優れた点・特色ある点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○【大項目12】運営諮問会議からの提案を踏まえて、創造技術コースにヘルス・サイエンス科目群を新設した。</li> <li>○【大項目12】PBL評価方法の共通化、PBL成果報告書の作成等、PBL型教育に関する取組を積極的に実施している。</li> <li>○【大項目13】オンラインを活用し、海外と共同でPBLを行ったり、AIITフォーラムを開講する等、運営諮問会議からの答申によって、グローバル人材の育成や社会人リカレント教育の面で充実を図った。</li> <li>○【大項目13】文部科学省補助事業「大学改革推進等補助金(デジタル活用教育高度化事業)『デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン』」において、他大学と連携し、デジタルコンテンツの作成等を行った。</li> <li>○【大項目13】産技高専との連携について、学生のリクルーティングや共同研究など多面的に取り組んでいる。</li> </ul>	
--	--

- 【大項目14】授業評価アンケートでの授業評価について、平均で4.46となった。
- 【大項目14】FDフォーラムを2回実施し、教員参加率が100%である。
- 【大項目15】コロナ禍においてブレンディッド・ラーニングを推進し、より社会人が学びやすい学修環境を提供した。
- 【大項目15】学生のニーズに基づき、修了生と在学生の橋渡しを積極的に行い、きめ細かなキャリア開発支援を行っている。
- 【大項目16】積極的な広報等の取組により、大学院説明会に昨年度を大きく上回る463名の参加があった。
- 【大項目16】令和5年度4月入学者の志願倍率が2.1倍の高水準に達した。

## 2 研究に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評価
17	研究に関する目標を達成するための措置	3

### 【評価説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

#### （優れた点・特色ある点）

- 【大項目17】PBL教育手法の改善のため、各コースにおいて全教員参加によるPBL研究会を開催した。
- 【大項目17】新設された2つの研究所を含む11の研究所の運営を行い、研究活動計画及び研究活動成果報告を研究所ごとにホームページ上に掲載することで、研究成果を社会へ周知した。

## 3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評価
18	都政との連携に関する目標を達成するための措置	3
19	社会貢献等に関する目標を達成するための措置	2

### 【評価説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

#### （優れた点・特色ある点）

- 【大項目18】都や自治体等が主催するイベントへの参加、区市町村等と連携した講座の実施などを通じて、都や区市町村等と連携し、中小企業振興等に関わる政策課題解決に向けた取組を推進した。
- 【大項目18】教員が持つ教育・研究の知見を反映した自治体職員向けの研修・公開講座を11講座開催した。
- 【大項目18】都が実施する大学研究者による事業提案制度により採択された受託事業「東京都地域防災計画のIoD(Internet of Documents)化による防災力向上」を開始した。
- 【大項目19】文科省受託事業に採択され、履修証明プログラム「社会人のあと一歩を叶える～モノづくり分野の価値創造力育成のためのAIIT型リスキリングプログラム～」を実施した。
- 【大項目19】社会人リカレント教育として、AIITフォーラムを実施しており、延べ1,379名の参加者を得たほか、AIITシニアスタートアッププログラムを継続的に実施している。

## 4 グローバル化に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評価
20	グローバル化に関する目標を達成するための措置	2

【評定説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

(優れた点・特色ある点)	
○【大項目20】	学生がグローバル人材として獲得すべき能力指標を活用した教育を行っており、基準を満たす修了生の割合が96.1%に達した。
○【大項目20】	産技大の特色であるPBL教育を海外と共同で行うことにより、グローバル人材の育成する教育を推進した。
○【大項目20】	アジア高度専門職人材育成ネットワーク (APEN: Asia Professional Education Network) を活用し、アジア諸国との交流を実施した。

Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評定
21	教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置	2
22	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇教育システムの継続的な改善 ◇他の教育機関等との連携	3
23	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇教育の質の評価・改善	3
24	学生への支援に関する目標を達成するための措置	2
25	入学者選抜に関する目標を達成するための措置	2

【評定説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

(優れた点・特色ある点)	
○【大項目21】	情報セキュリティ技術者育成プログラム及び航空技術者育成プログラムにおいて、現役エンジニアや関連企業の協力を得ながら、実践的・専門的な知識や技術を身に付けた多くの修了生を輩出し、その全員が関連する分野に進学・就職している。
○【大項目21】	コース横断型の医工連携教育・研究プロジェクトにおいて、AIを活用した画像認識のコンペティションなどアクティブ・ラーニングを導入した授業を展開するとともに、都立大人間健康科学研究科の大学院生等と連携して共同研究を実施した。
○【大項目21】	公立小中学校教員を対象に、「情報セキュリティLab. for Teachers」を対面で開催し、50名以上が受講した。
○【大項目21】	実験実習型の授業において実習教育DXを実施し、作業の効率性と安全性の両方を向上させることができた。
○【大項目22】	2大学・1高専の学生によるグローバル・コミュニケーション・プログラムについて、感染症対策を十分にとりながら、コロナ禍で途絶えていた海外派遣プログラムを再開した。
○【大項目23】	教員を対象とした新任研修、昇任者研修、管理職研修及び個別課題研修の参加率がいずれも100%であった。
○【大項目23】	技術職員を対象として、地域のものづくり企業の見学や社員との意見交換を行う研修を実施するなど、教職員のニーズに応じた研修機会の充実を図った。
○【大項目24】	未来工房プロジェクトなど、充実した課外活動支援を実施し、支援を受けた団体が大会で上位の成績を収めるなど、課外活動の活性化のみならず、高専の知名度向上にもつながった。
○【大項目24】	令和3年にクラブ活動指導員を導入し、指導内容の充実や活動の活性化を図り、全国大会への進出を果たすなど、学生生活の充実に向けた取組を推進した。
○【大項目24】	キャリアポートフォリオを活用し、学生に早期から自らの将来に対する目的意識を持たせるなど、きめ細かなキャリア支援を充実させた。
○【大項目25】	品川区、荒川区との協定による特別推薦入試制度について、令和4年度から募集人員を増加し、4名の学生を受け入れた。また、中学2年生とその保護者を対象としたスクーリング及び説明会を実施しており、特別推薦入試による入学希望者も増加して

いる。

- 【大項目25】女子在校生のインタビューや女子学生向けキャリア支援講座の様子を公式ホームページに掲載するなど工夫を行い、令和5年度入試では過去最多と同数の49名の女子入学者を確保した。

## 2 研究に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評価
26	研究に関する目標を達成するための措置	3

### 【評価説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

(優れた点・特色ある点)

- 【大項目26】科学研究費獲得の拡大に向け、若手教員を対象に応募書類添削や動画講座配信を専門業者に委託するとともに、都立大と連携して支援を行う仕組みを構築する等、取組の充実を図っている。

(更なる充実が期待される点)

- 【大項目26】特別研究期間制度を取得しやすいように取得者の年齢制限の撤廃、取得時期の分散などの環境整備を行い、令和5年度の取得予定者が増加した。引き続き取得しやすい環境づくりが進むことを期待する。

## 3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評価
27	都政との連携に関する目標を達成するための措置	3
28	社会貢献等に関する目標を達成するための措置	3

### 【評価説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

(優れた点・特色ある点)

- 【大項目27】中学生を対象として、楽しみながら情報セキュリティを学べる「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」やサーバ等の実機に触れる機会を提供する「ICT基礎Lab. for Junior」を開催し、100%に近い満足度を得ている。
- 【大項目27】高専の教員が中学校に出向いて行う出前授業を27件実施し、高専の教育内容への理解を深める機会としている。
- 【大項目28】技術者のためのオープンカレッジ講座について、荒川キャンパスでは、医工連携技術者育成プログラムの一環として学び直しの場を提供するなど、各キャンパスの長を生かしながら実践的な内容の講座を開催し、高い満足度を得ている。

## 4 グローバル化に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評価
29	グローバル化に関する目標を達成するための措置	3

### 【評価説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

(優れた点・特色ある点)

- 【大項目29】専攻科の1年生が全員履修する共通科目「先端科学技術特論」において、半数の講義を英語で実施し、専門英語を身近に体験できる機会を提供した。
- 【大項目29】2つの海外体験プログラムについて、コロナ禍の影響により、定員の70名に対し、参加者は53名と目標を下回ったが、上級生向けのグローバル・コミュニケーション

ン・プログラムでは、3年ぶりにシンガポールに渡航して現地の学生と協働・交流するプログラムを再開させた。

#### IV～VII 法人運営全般に係る目標を達成するためにとるべき措置

大項目番号	取組事項	評定
IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置		
30	組織運営の改善に関する目標を達成するための措置	3
31	教育研究組織の見直し等に関する目標を達成するための措置	3
32	事務の効率化・合理化等に関する目標を達成するための措置	2
V 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置		
33	財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置	3
VI 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置		
34	自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置	3
VII その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置		
35	その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置	3

#### 【評定説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

##### （優れた点・特色ある点）

- 【大項目30】都や区市町村等との連携を推進するため、都各局等へのヒアリング、アンケート等によるニーズ調査に加え、新たに、ニーズ調査の結果を踏まえた調査研究の公募を行った。都とのマッチングが促進され、各種研究の組成につながっている。
- 【大項目30】都立大に内部質保証推進会議を設置し、運用フローの見直し等により、内部質保証の更なる実質化を実現し、全学的な教学マネジメントを推進するための学内体制の強化を図った。
- 【大項目31】令和2年度に策定した「新たな連携の在り方」に基づき、入試連携や研究機器共用について教職員とのヒアリングや意見交換を実施し、2大学1高専の連携強化や交流機会の拡充を図った。
- 【大項目32】働き方改革の推進に貢献した取組を表彰する「ワークプラクティス・オブザイヤー」を実施し、職員のモチベーションの向上や、法人の働き方改革の機運醸成を図った。
- 【大項目33】同窓会と法人内の関係課が連携して、ホームカミングデーに合わせて寄附イベントを開催し、延べ13名の寄附者に対して感謝状を贈呈する等、継続的な寄附意欲の促進による寄附金獲得額の拡大を図った。
- 【大項目34】「牧野標本館」について広報重点企画として設定し、多角的・戦略的に広報を行うなど、情報発信の取組の強化を図った。
- 【大項目34】都立大における対面での「ホームカミングデー」の再開や、産技大での修了生コミュニティ制度の活用など、卒業生・同窓会等との連携・協力を強化した。
- 【大項目35】カーボンニュートラルの実現に向け、「カーボンニュートラル推進プラン」を策定するなど、取組を進めるとともに、今後の推進体制を構築した。

##### （更なる充実が期待される点）

- 【大項目35】教職員等が高い倫理観を備えるためにも、研究コンプライアンス研修やハラスメント防止研修等において、さらなる実効性のある取組を期待する。